

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年8月7日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0892500059		
法人名	社会福祉法人 二十一世紀会		
事業所名	グループホーム 明の家	ユニット名	
所在地	〒319-3114 茨城県常陸大宮市野上1924-1番地		
自己評価作成日	平成23年12月28日	評価結果 市町村受理日	平成24年7月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0892500059&SCD=320&PCD=08
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年2月28日	評価確定日	平成24年7月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>自然豊かな地域で、家庭的な雰囲気の中で、その人らしい穏やかな生活ができるように、真心のこもったケアに努めている。</p> <p>利用者様の意向に添い、外出等の支援に取り組んだり、季節感を取り入れた環境作りに努めている。同法人他施設との日常的な交流があり自由な時間を思い思いに過ごし、心からのバリアフリーがここに生きており、ありのままの姿をうけいれ、共に過ごしている。</p> <p>地域に根ざした明の家とし、月一回の地域のボランティアの方をお招きしたり、夏まつりをはじめ地域の行事など積極的に参加している。</p> <p>利用者様の希望や思いを第一に考え、同法人他施設の合同での温泉旅行・海外旅行に積極的に参加し、宴会など心から楽しんだり多勢の人たちとふれ合う機会がある。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>同一法人の障害者支援施設が隣接し、自然豊かな地域で利用者同士が係わりを持ちながら楽しく生活ができるよう支援している。</p> <p>利用者は職員と一緒に散歩や買い物に出かけているほか、隣接する同一法人の障害者支援施設と合同で台湾や北海道、伊香保温泉など、海外や県外旅行を支援しており、利用者の楽しみとなっている。</p> <p>職員は利用者の生活歴を把握し、日々の係わりの中から利用者の意向の把握に努め、希望にそった暮らしができるよう支援している。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義や役割を考えながら、現場の職員で理念を考え作成し、理事長より言葉を頂いて共有し意識づけし、より身近な理念となり、実践につなげている。	「地域と共にふれあい、支えあい、思いあい、敬愛」との理念を理事長や管理者、職員で話し合い作成している。 職員は玄関や事務所に掲示してある理念に目を通すとともに、朝礼時に唱和し全職員で理念を再確認し、共有しながら実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月、大正琴演奏や絵画教室のボランティアの方々の訪問があり、きよらの郷の手作りパンを提供し、交流をかさねるごとになじみの関係・つながりなどを深め、利用者の暮らしを豊かにし楽しみになっている。	毎月大正琴演奏や絵画教室のボランティアを受け入れているほか、隣接する同一法人の障害者支援施設の利用者と合同でボランティアほうずきの会の演奏を聴いたり一緒に体操をしている。 利用者は職員と一緒に地区の体育祭やあゆの里祭り、芋煮会などに参加し、地域の一員として交流している。 地域の人々を招待して隣接する同一法人の障害者支援施設と合同で夏祭りを開催し、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に積極的に参加し、地域の方々と交流しながら認知症などの理解を得ている。運営推進会議メンバーの方々にも家族会等に参加頂いて暮らしぶり、支援の仕方などの理解を得ている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、市町村・地域等の代表者が参加して下さり、活動状況や防火安全体制等の取り組みや改善課題を話し合いの場とし、意見交換を行いながらサービスの向上に活かしている。利用者やサービスの実際・評価の取組状況について具体的に報告し、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は地域の代表や利用者の代表、職員で2ヶ月に1回開催し会議録を作成している。会議では利用状況や行事活動報告を行い、委員と意見交換をしている。 委員から地域のボランティアの受け入れや山方公民館のクリスマス会に参加してはどうかとの意見が出され実行している。 平成23年9月以降、運営推進会議に市職員の参加を得るまでには至っていない。	市職員においては福祉サービス向上のため、全ての運営推進会議への参加が望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などを通して、事業所の考え方や実情を報告し、課題解決に向けて話し合い取り組み、市町村との連携強化を図っている。	管理者は2ヶ月毎に開催される市主催のグループホーム連絡協議会に参加し、市担当者との情報交換をしている。 職員は市役所へ出向いたり電話で困難事例を相談するなど、市担当者との連絡を取り合い協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を十分に行い、職員周知徹底、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。玄関や門の施錠せず、安全面も考慮し、利用者の自由な暮らしを継続している。	身体拘束廃止に向けたマニュアルを作成するとともに、職員は勉強会で禁止の対象となる11項目の具体的な身体拘束の内容と弊害を理解している。 職員は身体拘束になりそうな場面においては互いに注意し合い、身体拘束をしないケアに努めている。 門や玄関、居室は施錠せず、職員の徹底した見守りで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法等について、勉強会を行い学ぶ機会を得、高齢者虐待がどのようなものかどのような悪影響を及ぼすかを全職員が学び、マニュアル化し、虐待・拘束などの未然防止に努めている。常に真心のこもったケアができる施設づくりにみんなで努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や成年後見制度などといったやや難しき内容のものも、資料等を見ながら話し合いや勉強会を行い、誰もがわかりやすく理解できるように工夫をこらし、マニュアル化することで、日々活用できるよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者やご家族等の不安・疑問点をたずね、個々の立場に立ち、主任・管理者がわかりやすく丁寧に説明し、信頼関係を築き、理解や納得をはかれるよう努める。委任状などもかわしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族などの意見をくみ上げるため、無記名のアンケートを実施し、そこから得た要望・意見を運営に反映させている。	利用者や家族等に無記名のアンケートを実施したものの回答が無かったり、玄関に意見箱を設置しているが投函の実績が無いなど、利用者や家族等の意見や要望を汲みあげるまでには至っていない。	利用者や家族等の意見が出易くなるようなアンケートの内容に見直すとともに、汲みあげた意見等を運営に反映させることが望まれる。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設全体での職員会議や日々の申し送り等を通し、代表者や管理者などだけではなく、どの職員もが意見や提案を述べたり、聞いたりできる機会や場を随時設け、運営に関する重要な意見として活かし、反映させるよう努めている。働く意欲の向上や質のレベルアップ化にもつなげている。	管理者は月1回の全体会議や日々の申し送り時で職員の意見や要望を聞く機会を設けている。 職員からの意見や要望で事務所にロッカーを設置したり、介護方法の勉強会を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員一人ひとりが、やる気や向上心を常に持って働ける職場の環境づくり・条件の整備に努め、職員同士が協力し合い、真心をもって利用者のケアや業務にあたるように心がけている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員目線で勉強会・ミーティングを開催し、職員が納得いくまで意見交換し、職員と取組みを十分に行っている。事業所内外の研修も取り入れ、技術・知識向上につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者、各職員が働きやすい環境づくりや整備に取り組んで、各職員から具体的な意見や要望などを取り入れ、働く意欲が持てるような職場作りに努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまで、本人の気持ちに向き合いながら、本人の気持ちを十分に受け入れ、傾聴し、信頼関係を築き上げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談する家族の立場に立ち、本人と家族との思いの違い、家族の体験などを理解し、家族の声に傾聴し、信頼関係を築き上げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人、家族等の実情や要望をもとにその時点で何が必要か見極め事業所としてできる限りの対応をしている。必要に応じて他のサービスの利用調整等も速やかに行っている。安心・納得しながら利用できるよう、十分に対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に向き合い・寄り添い、安心して生活して頂けるよう、その人らしくありのまま受け入れ、傾聴し意向に添いながら時間をかけて、関わり合いの中で、その人を十分に知っていくよう、ケアに取り組んでいる。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者のご家族の絆を大切にし、施設や利用者様の様子などを密に連絡し合い、職員とご家族とで共に利用者を支えていけるよう信頼関係を常に築き上げている。家族会や面会、お便り（明の家便り）等を通して、つながりを保っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親せきの来訪や帰宅・外出等の機会をもって頂き、馴染みの人や場所との関係が途切れることがないように支援に努めている。また、他施設の利用者やボランティアなど、様々な人と人との関わりを大切にしている。	利用者の家族等が来訪しているほか、職員は近隣の床屋に連絡調整して来訪してもらったり、馴染みの美容室でパーマや髪染めをしたいとの利用者の要望に応じて、職員が付き添っている。 管理者は正月や盆には利用者が家に外出や外泊ができるよう家族等に電話などで促し、これまでの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が常に仲良く関わり合い、支え合えるように、散歩やレクリエーションなどを通して、楽しく充実したときを過ごしていただき、孤立や利用者間のトラブルなどを防ぐように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、これまでの関係性を大切に継続し、その後の相談や支援に応じる姿勢を示し、経過を見守ったり、必要に応じて相談にのったり、支えとなれるように信頼関係をずっと築いていく。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者がその人らしく暮らし続けられるように、利用者一人ひとりの希望・意向等の把握に努めている。調査等を実施し、出来る限り希望にそえるよう努めている。把握が困難な場合も本人本位の視点で職員が話し合っており取り組んでいる。	職員は利用者の基本情報から生活歴を把握するとともに、日々の係わりの中で行動や表情、しぐさを観察し意向の把握に努めている。 3ヶ月に1回利用者に意向調査を実施し、食べ物や外出先の希望を集計して職員で話し合い、利用者の意向にそった支援をしている。 飲酒をしたいとの利用者の希望を受けて、職員の見守りのもと夕食後に飲酒ができるよう支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や職歴・病歴などを把握し、プライバシーに配慮しつつ、自分らしく暮らしていける様な支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりへ寄り添い、日々のケアの中で本人のできること・できないことを見極め、本人にできることは、時間がかかっても本人のペースで行って頂き、職員は手助けとして関わりながら、本人にできることの喜びを味わえるような支援を行っている。ADL低下がみられた利用者全職員で本人に向き合い、自立支援を促し、少しずつレベルアップをうながし、現在では、食事自立摂取可、排泄はトイレ利用までの前向きな支援に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は本人がよりよく暮らすための課題やケアのあり方について本人や家族も含めて話し合い、作成している。そして、本人や家族の要望や変化に臨機応変に見直せるよう努めている。	介護計画は利用者や家族等から意見や要望を聴き、介護支援専門員や職員で話し合っており作成している。 モニタリング表を作成し、毎月カンファレンスを実施するとともに3ヶ月毎に介護計画を見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ごとに日中・夜間の様子を個人ケースに細かく丁寧に記入し、ちょっとしたことでも全職員（必要に応じて全施設職員も）と情報を共有し、今後のケアの仕方や介護計画見直しを行っている。GH内での1日に2回の申し送り、施設全体での申し送り等で共有し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に利用者やご家族の声に耳を傾け、その時・その場のニーズに応じて、柔軟な支援を臨機応変的に行っている。他施設で日中を過ごしたい、他施設のお風呂に入りたい、○○を買いたい、など利用者様の声にも納得していただけるような支援やサービスを提供・多機能化に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者一人ひとりが地域資源を最大限に活用できる施設づくりを配慮し、心身ともに健康でその人らしい安心・安全な生活ができるように支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは常に適切な医療がどの利用者も受けられるような関係づくりに取り組み、ご家族様への連絡も密に行っている。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診を支援しているほか、協力医療機関への受診は職員が付き添うとともに受診結果を電話などで家族等に報告したり、病院受診ノートに記録している。 隣接する同一法人の障害者支援施設の看護師が毎朝グループホームに出向いて利用者を観察し、状態の変化に早めに対応できるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段から健康管理に留意し、状態変化や異常などがあれば、迅速に看護職員に伝達・相談などをし、関係を密にして適切な受診や看護が受けられるように支援している。又、看護知識が得られるよう、内部研修にて法人内の看護師が講師となり、GH内の知識向上につなげている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、家族等と相談しながら病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、本人・家族等と話し合い、対応方針の共有を図っている。また、職員全員で話し合い、支援するよう努めている。	重度化や看取りの対応指針を作成し、契約時に利用者や家族等に説明して同意を得ている。事業所は看取りを行う方針だが、現在までに経験はない。職員は看取り対応の勉強会を行うとともに、協力医療機関と連携し方針を共有して体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者一人ひとりの急変時や事故発生時に備えて全職員が把握できるよう、手順表を作成し、内部研修等で看護師から学び、定期的に訓練を実施し、実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災等の災害時避難訓練を月1回実施し、全職員が避難方法等を身につけ、必ず反省会を実施し、問題点があれば注意していくよう努めている。また、同法人の他施設とも連携を取り、災害時の協力体制を図っている。また、GH独自の全職員が分かりやすいよう、手順表を作成している。	消防署指導の避難訓練や隣接する同一法人の障害者支援施設と合同で避難訓練を実施しているほか、毎月事業所独自に夜間想定避難訓練を実施し、職員は通報や消火器の使い方を訓練している。訓練後に反省会を行い問題点を話し合っ改善に努めるとともに記録に残している。近隣住民宅は離れていて少ないため、隣接する同一法人の障害者支援施設と連携して災害時の協力体制を築いている。災害時に備えて米や缶詰、飲料水などを備蓄している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格の尊重とプライバシー確保を徹底するよう、全職員で確認し合い、日頃の利用者に対する言葉かけも十分に配慮するようになど勉強会を開催している。	プライバシーに関するマニュアルを作成し勉強会を行うとともに、職員は利用者一人ひとりの人格を尊重してプライバシーを損ねない対応に努めている。 トイレ誘導は利用者の耳元で小声で話かけるほか、入浴は1対1で対応するなど、プライバシーに配慮した対応をしている。 個人情報に関する書類は事務所に保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が選択でき、自己決定できるよう、日常生活の中で傾聴する姿勢を第一に寄り添いながら、希望や願いを引き出せるような支援に努めている。また、意思表示が困難な利用者様には、アイコンタクトを用いながら、本人のもつシグナルなどをキャッチでき、関わり合いを十分に支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせて、その日又はこれから何がしたいのか希望を聞き、好きなときに自由に過ごして頂けるよう、他施設とも連携・協力を得て、利用者に満足感を味わって頂いている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いくつになられても一人の人間として、それぞれの好みに合ったメイクや髪染め、腕時計や洋服など外出時などだけではなく、日常的から行い、「おしゃれ」をするという喜びをいつまでも味わっていただき、さらにそれを生きがいにつながるような支援をしている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好アンケート調査をし、毎日の食事が楽しみの一つとなるよう、個別に好みを確認したり、誕生会や日々のメニューに季節感あふれる食材を取り入れたり、赤飯・おこわ・餅などを提供し、喜んで頂いている。	職員は利用者と同じ食卓を囲み、食事が楽しめるよう食事介助や声かけをしながら一緒に食事をしている。 利用者に食事の嗜好アンケートを実施し、結果をミーティングで話し合い、利用者の好みの献立が提供できるよう支援するとともに、クリスマス会や正月、ひな祭り、敬老会、誕生会など様々な行事食を提供している。 利用者は職員と一緒に食材を切ったり、下膳や食器洗いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士を講師として迎え入れ、勉強会を開催し、職員全員の知識向上に努め、好き嫌いのある利用者も満足して食べて頂くよう、工夫したり、摂取量・栄養バランス・水分量など一人ひとりに合わせ支援し、食事摂取状況・水分状況を記録し把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけ、入れ歯洗浄等を行い、利用者の力を引き出しながら、その人に合った口腔ケアを行い、清潔保持に努め、口腔チェックを毎回行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別の排泄チェック表を随時記入し、各利用者の排泄リズム・パターンを全職員が把握に努めている。オムツ使用の利用者を全職員でリハビリをかねてトイレでの排泄に切り替え、時々、尿失禁はあるものの、利用者の生活ペースが広がったこと、職員のケア方向性一つでオムツ使用から、オムツを外せるケアが可能になることを実感している。	職員は排泄チェック表を活用し利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、利用者のサインを見逃さないよう見守り、声かけや誘導をしてトイレで排泄ができるよう支援している。 夜間はおむつ使用の利用者でも、昼間はリハビリパンツを使用し、なるべくトイレで排泄ができるよう支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の生活の中で便秘解消のために食物繊維を摂ったり、水分量に気遣い、楽しめる体操や個人が好きなきに自由に散歩などを行い、自然排便を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりのタイミングに合わせ、声かけ・会話をしながら、寛いだ雰囲気の中で安心して入浴できるように支援している。入浴介助しながら、肌の状況等のボディーチェック等を行っている。	1日おきで午後からの入浴が基本となっているが、利用者の希望にそっていつでも入浴ができるよう支援している。 利用者の要望で隣接する同一法人の障害者支援施設にある大浴場での入浴を支援している。 月2回常陸大宮市にある大型公共温泉に行くことが利用者の楽しみになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や毎日の暮らしの中での変化に目を向け、安心して安眠できるように支援している。天気の良い日は十分に布団干しを行い、温かな布団のなかで眠りにつくことができると、ベッドまわりに全職員気配り・目配りが良いと満足して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり服薬の目的や副作用、用法・用量などを看護師からアドバイスなどをいただきながら理解している。服薬の飲み忘れ・誤薬を防ぐために、服薬時の復唱、服薬チェック記入を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で、喜びや張り合いのある日々を送って頂けるよう、本人の意向を聞いて一人ひとりにあった役割をもっていただいたり、一人ひとりに希望・楽しみを聞き、個別に対応している。利用者が他施設で談話したり、食事をしたりして、自由な時間を寛いで過ごして頂いている。本人の好きな時、自由に散歩を行うなど、利用者本位のケアを実施している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回の外出や年に数回の施設合同旅行（国内・海外）、地域内のイベントごとなどに積極的にももむき、さまざまな人たちとの交流を大切にすると共に、利用者様の意欲向上や気分転換につなげている。また、アンケートなどで利用者様の外出に対する要望等を聞き、一人ひとりの希望にそえることができるような支援を配慮している。	利用者は職員と一緒に天気の良い日は散歩や買い物に出かけるほか、隣接する同一法人の障害者支援施設と合同で台湾や北海道、伊香保温泉など、海外や県外に旅行ができるように支援をしている。 家族等の協力を得て利用者が外食や居酒屋などに出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出等を通し、本人の欲しいものを伺い、職員が見守りながら、お金を出して物を買う喜びを味わっていただけるように配慮をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の声常に耳を傾け、家族の声を聞きたい、手紙を出したいなどという希望があれば、利用者満足を得られるような対応を行う。また、ご家族等に年賀状などの季節のお便りや写真などをお送りして、利用者様のさまざまな暮らしぶりをお知らせしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当施設の花壇等で育てた季節の花を飾ったり、廊下の壁には外出等の時の思い出の写真や利用者様の作品を置いて、どなたでも心地よくリラックスした気持ちで過ごせるよう日々配慮している。	居間兼食堂は明るい設計となっており、その大きな窓から季節の移り変わりが見渡せたり、ゆったりテレビが見られるよう配置し、利用者が落ち着いた雰囲気の中で居心地よく過ごせるよう配慮している。 居室のベランダから利用者同士が行き来できるような木材の広いベランダを設置し、天気の良い日は布団を干したり利用者同士で会話や外気浴を楽しんでいる。 玄関や廊下、浴室は清潔に保たれているほか、利用者の安全に配慮して玄関や廊下に手すりを設置している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いベランダで、園芸を楽しむ利用者、日向ぼっこをしながら談話を楽しむ利用者など、思い思いにゆったりとくつろぎながら穏やかに過ごせる共用空間がある。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が自らその人らしい部屋作りを行っている。花や絵を飾ったり、テレビをゆっくり鑑賞できる空間をつくったりと、なじみのものを使用し、本人なりに居心地のよい、落ち着いた環境で生活できるようにしている。	居室はエアコンや洗面台が備え付けられている。 利用者はこれまでと同じ生活ができるよう家族等と相談してテレビやタンス、写真、好みの物品を持ち込み、利用者好みの居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	どの利用者も日常生活の関わりの中で、本人のできること・わかることを見極め、本人のできる力を活かして、ADL・意欲向上につながるよう、安全・安心できめ細やかなケアを実施している。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム明の家

作成日 平成24年7月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	利用者や家族等の意見が出易くなるようなアンケートの内容を見直し、くみ上げた意見等を運営に反映させる	くみ上げた内容等をミーティング等で話し合い、運営に反映させる	アンケートの内容を見直し、くみあげた意見等をミーティングで話し合う	1ヶ月
2	4	市職員において、福祉サービス向上のため、すべての運営推進会議に参加して頂けるようにしたい	市の職員においてすべての運営推進会議の参加	地域包括支援や職員、市の職員の方々にすべての運営推進会議に参加して頂けるよう促す	1ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。